

町田日本語教室見学

峡中支部

小林利巳

H24年12月15日（土曜日）天気が心配された、雨は何とかもちそうな空。このまま雨が降りませんようにと祈りながら、甲府駅で研修旅行参加の先生方と待ち合わせ、ホームで現地合流の松浦様以外全員が顔を合わせました。初めて研修旅行に参加させていただく私にとってどんな日本語教室見学になるのか楽しみにしながら、特急あずさに乗り込みました。車中では先生方に差し入れていただいたお菓子などいただきながら、また隣同士それぞれの最近の活動状況等の話をしながら、新宿で乗り換え東京駅へ向いました。



東京駅では旧東京駅の歴史あるレンガを見て、復元された新しくなった東京駅の外観を眺めました。レンガ造りのきれいな外観。

思い思いに写真を撮り、皆さんで記念撮影。

すこし雨が落ちてきたところで、雨宿りを兼ねてどこか休憩できるところを探していただきました。「The Tokyo Station Hotel」のカフェに。ホテルのロビーに入るとクリスマスシーズンとあってクリスマスツリーが出迎えてくれ、赤と緑、金色などの飾りがなお一層ホテルを素敵に映していました。ロビー横の漆喰の壁の高級感あふれるカフェ。2テーブルに席を取り、メニューをいただく。メニューにはよいお値段の飲み物があり、トアルコトアラジャコーヒー1,250円の文字が、思わず高い、と思いつつオーダー。それぞれコーヒー、紅茶、ジュースなど注文しました。会話を楽しみ、飲み物を楽しみながら優雅なひと時を過ごしました。ちなみにトアルコトアラジャコーヒーはとてもまろやかで香り高いコーヒーでとてもおいしかったです。1,250円でもよいと思いました。一度味わってみてはいかが。

優雅なひと時を過ごし町田市へ。日本語教室の訪問時間が迫っていたので、昼食を中華店で急いで取り、雨の中急ぎながら町田国際交流センターが入っている町田市民フォーラムへ向かいました。建物の4階に町田国際交流センターがありました。



そこで待っていただいたのは「みんなの日本語教室」を開催している“町田日本語の会”のボランティアの皆さん。岡会長さんはじめボランティア3名の方々。岡会長さんから「町田日本語の会」の概要や町田にある3つの日本語ボランティアの会の説明をいただき、町田日本語の会のボランティアの方々に案内をいただき2、3人ずつ教室を見学させていただきました。

現在町田国際交流センターでは3つの団体が日本語教室を開催しています。今回見学をさせていただいた町田日本語の会の「みんなの日本語教室」、町田国際交流センターの「MCIF 日本語教室」、まちだ地域国際交流協会（MIFA）の日本語教室があります。「みんなの日本語教室」と「MCIF 日本語教室」はグループレッスンで、まちだ地域国際交流協会（MIFA）の日本語教室は1対1のマンツーマンの教室です。

「町田日本語の会」は1993年創立で現在会員40名（実働33名）。9月末時点で実働37名、休会6名。「町田日本語の会」は補助金なしで運営しています。会員の会費は年間1,000円。行事の参加費はその都度出しているそうです。運営は学習者の会費で運営しています。10周年の文集を作られたときは社協の補助金を利用して作成され、10周年ごとに冊子を作っているそうです。会員は無報酬で、日本語を教えることの他に会計や教室管理、研修などの役割を持ってボランティアをされているそうです。ボランティアの日本語教師は日本語教師の養成講座の基礎過程を修了されている、420時間の講習を受けた方や日本語教育能力検定試験に合格するなど教え方を学んでいる方が教えていらっしゃいます。日本語教師養成講座が町田国際交流センター主催で行なわれてい

て、修了者には入会の声掛けをしているようです。ホームページもあり、管理は IBM 出身の方が管理してらっしゃるようです。



外国人受講者は H24 年 3 月時点で 59 人、6 月末で 48 人、9 月末で 53 人と東日本大震災後受講者の数は減っているようです。受講者の国籍は中国が一番多く、韓国、タイなどが次に多く、欧米人は少ないとのこと。また尖閣諸島問題が起きてからは中国人受講者も減っているようです。山梨でもリーマンショックから東日本大震災、原発の放射能漏れなどの影響があり外国人の数は減っている状況があります。それでも未だ多くの外国人住人はいます。日本語支援の必要性は大きいのではないかと思います。

「町田日本語の会」の教室はボランティア・サロン 2F で開かれている月・水・木曜日の午前 10 時から 11 時 30 分、市民フォーラム 4F で開かれている水曜日の午後 7 時から 8 時 30 分、土曜日の午後 1 時から 3 時の週 5 教室が開かれています。なお第 3 水曜日の夜は清掃の為、会場が中央公民館 6F となるようです。午前の教室は主婦が多く、夜や午後の教室は中級者が多いとのこと。受講者の会費は 1 ヶ月 1 クラス 300 円。ただし 1 ヶ月目はレベルを見ながらグループを変更し様子を見る為会費をいただいていないようです。テキストは学習者が自分で購入します。

教室の形式は 1 つの教室の中にいくつもの「島」を作り 2,3 人を集めて 1 人のボランティア教師が教える形をとっていますが、レベルや学習内容によっては受講者 1 人対ボランティア教師 1 人の場合もあるようです。最近はホームページ経由での受講者が多く、受講者は日本語学校で勉強している人や日本語能力試験を目指している人もいるとのこと。レベルの違いがあり、レベルによって絵や新聞などを使用、電話での応答、労働三法などそれぞれの状況やニーズに応じて教えているようです。大教室のメリットは 1 つの場所で幾つもの「島」を作り学習していることが、レベルやニーズに合わせられるということのようです。

基本的な教材は「みんなの日本語」を使用していて、学習者が自分で購入し

ています。しかし受講者はレベル差があるので、ボランティア教師はその他必要な教材を用意して教えているそうです。受講者のレベルやニーズによってはオリジナルの教材だけで教えている方もいます。いろいろ試みながら主婦には主婦の会話を教えるなどその人に身近な例文を作り教え、理解しているかどうかは例文を作らせ理解を確認したりしているそうです。音声テープなども必要であれば使って教えています。1999年町田での生活の教材をCDRで作った。市役所・駅・病院などの場面を学習できるものになっている。東京日本語ボランティアネットワークでもやさしい日本語のテキストがあるそうです。ネットで探してみるのも勉強になるかもしれませんね。

教室見学をした土曜日の教室は通常は受講者35人前後だそうです。見学当日は29人と日ごろより10人くらい少なく、支援者のボランティア教師は10名。レベルや学習内容に応じて「島」ができていた。1つの島はレベルが高く中国人の男性と韓国人の女性の受講者が新聞や「女性の品格」の本をもとに勉強していました。中国人の男性は中国で日本語の勉強を3年、その後日本語を使う企業に就職、現在日本で大学に通っているそうです。韓国人の女性は韓国の大学で日本語を勉強している方で、現在日本に留学中。とても流暢に日本語を話していました。別の島では3人の受講者が漢字練習をしていました。小学校3年生レベル、日本語能力試験N3くらいの漢字を勉強していて、読み方のみ学習し、新聞が読めるようにとボランティア教師の方は教えていました。平仮名を学習していた方は初級のように、教室では基本的には母語を媒介語としないそうですが、ボランティア教師は英語を媒介語として教えていました。そのボランティア教師は若い女性で、ニュージーランドで日本語を教えていたそうです。学習者も英語により理解が進んでいたようで、場合によっては日本語の直説法ではない教え方もありのようです。ボランティア教師は、20歳代～60歳代など様々な年齢の方がいらっしゃいました。日本語ボランティア教師はいろいろな人生経験の方が年齢を問わず関わられるボランティアなのだと感じました。この教室では各クラスにボランティア教師のクラス長がいて、受講者へのインタビューやレベルを見て教室内の受講者をコーディネートしているそうです。どの先生に教わっているかということだけわかるようにしていて、学習の記録は残していないとのこと。担当教師がお休みするときは、別の教師が引継ぎをして続きを指導するそうです。

教室では初心者到手厚く、出来る人には教室を卒業してもらうようにしているそうです。最近の受講者はインターネットなどで勉強したりしてきている為、ゼロ初級の方は少なくなっていますが、しゃべれるが読めないなど読む、書く、聞く、話すと4つの機能のレベルがそろっている受講者はいないとのこと。会話をしたいという希望に対してただしゃべっていけばよいというわけではないとのこと、助詞など文法も教科書に添って教えているそうです。また、中級者には以前学習したものの復習を交えながら教えているとのこと。ボランティア教師の知識や経験の必要性がこのようなことからもうかがえます。町田日本語の会は会員のブラッシュアップ研修を行なっています。大学の先生より生きたやり方を実践に近いところで教えてもらっているとのこと。また仲間のやり方、教え方を見る機会を作っているそうです。

最近では短期の受講が多いそうです。日本語学校ではないので短期での受講を希望されることもあり、旅行者で3ヶ月の滞在、1,2ヶ月の滞在中に日本語を勉強したいと受講を希望される方もいるそうです。また、1,2回来て来なくなる人や検定試験を受けるので学校へ行くのをやめますという人など、受講者の事情は様々。「町田日本語の会」では「来るものは拒まず、去るもの追わず」としているそうです。もちろん熱心に勉強している受講者も多く、日本語能力試験を受けて時給のアップにつなげようという方やパートに出るために勉強している主婦。応援したくなりますね。

町田市の3つの日本語支援団体は3ヶ月に1回定例会をしているそうです。また年1回全体での交流会やスピーチコンテストも開催しているとのこと。スピーチコンテストに向けて受講者は自分で文章を考えることでレベルが上がっているそうです。スピーチコンテストの原稿は基本的にボランティアが直さないそうです。

日本語教室が行なわれていた町田市民フォーラムでは、見学当日、日本語教師養成講座が、町田国際交流センター主催で行なわれていました。2,3年前までは年2回行なわれていましたが、現在は年1回の半年コースの15回。1回2時間半の講座。吉田先生はこちらの講座にも関わってらっしゃるそうです。日本語教室見学後「町田日本語の会」の岡会長さん他ボランティアの皆さん、日本語教師養成講座の吉田先生と荒明様も加わっていただき、山梨日本語ボランティアの会との意見交換の場を設けていただきました。

町田国際交流センターは日本語活動や生活者への語学を通じた情報提供など、ほぼ毎日活動しているそうです。町田国際交流センターのクラスについても紹介していただき、8クラスがあり、ボランティアは130人。子どもの学習支援や中学生の学習支援もしているそうです。今日の意見交換には参加していませんが、まちだ地域国際交流協会についてもお話をいただきました。日本語支援の3つの会は3ヶ月に1回定例会を開いていて、交流会も開催など活動状況や外国人に対する支援の現状についてお話をいただきました。

山梨日本語ボランティアの会から受講者の状況や会の活動状況、教室の場所確保や教室までの足の問題などの困難点についてお話をしました。ボランティアの日本語教師の資格の有無、テキスト、ブラッシュアップ研修、活動費など多岐に渡って意見が交換されました。少ない時間ではありましたが、貴重な時間をいただきました。

山梨ボランティアの会では80歳以上の方も教えていることから、学習者に安心感を持ってもらっているとの紹介もさせていただきました。

今回、研修旅行で町田の日本語教室を見学させていただき本当にありがとうございました。町田市でも山梨でも外国人に対する日本語支援には、様々な職歴や生活暦の方が若くても高齢になっても携わっておられました。退職しても高齢になってもボランティアを通して社会的繋がりを持って生活できること、またボランティアの会を通じて人とつながっていることは希薄な社会の中でも素晴らしい事で大事なことのように思いました。介護、子育て、仕事などについて話せる場や人がいる。ボランティアにとっても日本で暮らす外国人にとっても話せる場や人がいることはとても大切だと思います。日本語ボランティアの会での繋がりをあらためて大切にしたいと感じました。

今回の日本語教室見学にあたっては、町田日本語教室に携わっている吉田先生のご紹介で見学をすることが出来ました。感謝申し上げます。ありがとうございました。また、「町田の日本語ボランティア」の岡会長様、佐藤様、遠藤様他見学や意見交換会に参加いただいたボランティアの皆様本当にありがとうございました。

最後に長阪会長をはじめ、今回の研修旅行の幹事をしていただいた功刀先生、高石先生にはいろいろと手配いただき本当にありがとうございました。お疲れ様でした。